



## 親子の愛と現金についての想念

父の日と母の日が別に設けられている日本や他の国々と違って、韓国は父と母に感謝の気持ちを表す両親の日（5月8日）がある。

ちょうど、今年の5月7日、出張で韓国に行くことになり、仕事が終わる時間に合わせた夜遅い時間に、私の顔をみるために母がホテルに来ることになった。翌日は両親の日。母にどんなプレゼントをしようかと迷いながら、インターネットを調べた。

次は私がインターネットで見つけた、韓国のある新聞が発表した、実際に子が親にあげたプレゼントのランキングである。

- 1位：現金
- 2位：おいしいお食事のおもてなし
- 3位：服や靴など
- 4位：カーネーション
- 5位：商品券

これに対し、両親が欲しいと思っているギフトのランキングは、

- 1位：現金
- 2位：旅行
- 3位：衣料雑貨
- 4位：健康食品
- 5位：電子製品

まず、興味深いのは、実際に子がプレゼントしたのも、親にプレゼントとして一番好まれたものも、現金であるという事実だ。

日本人には違和感があるかもしれないが、現金は生活費に当てることもでき、親の好みにあう欲しいものを直接買えることができる



などの理由で、韓国人は現金を好む傾向が強い。本音を隠すことが苦手な韓国人は口をそろえて、贈り物は現金が最高だと言っている。また、現金を好む親に、現金をあげることが、どの贈り物をしようか悩む時間も減らすことができるので、子供たちも現金を好むだろうという分析もある。誠意がないと思われる心配はあるが、私が読んだ記事によると、会社員の65%が両親に現金をプレゼントしたそうだ。

韓国のテレビのインタビューに答える親も、私の母も、一番いいプレゼントは、現金であると気兼ねなく話をするのを見ながら、韓国人ながらも私はなんだか違和感をおぼえてしまう。日本での生活が長いからだろうか。そういえば、数年前は私も、日本の友人の結婚祝いとして、現金を贈ることを検討したが、夫から、「せめて商品券にしろ」と言われたのだった。

また、親が受け取りたいプレゼントの2位は旅行のプレゼントであるが、子が親に実際に贈ったプレゼントの5位内に、旅行は見当たらない。

ここでは、子と親と一緒に旅行するケースを論外にして、両親のみの旅行のケースを考えてみる。子どもたちの立場からは、他のギフトよりも高価なので、旅行をプレゼントした子は少ないのではないだろうか。

一方で、自分の老後を考えるよりも、結婚する子の新居まで心配して準備する韓国の親の立場からは、献身的に子供にたくさんの愛情とお金を注いだので、比較的高価である旅行くらいは、当然受け取る権利があると思っているだろうか。と、考えてみるのは、私の勝手だろうか。

話は少しそれるが、現金を好む文化と、本音をついつい言ってしまう韓国人の国民性として、韓国人は日本人に比べて、普段の会話にもお金を話題にすることが多いと思われる。自慢に聞こえる可能性がある場合や、他人にストレスを与える場合もあるだろう。しかし、もちろん韓国人の情を感じることもあるだろう。

結局、私は悩んだ末に母に化粧品をプレゼ



ントした。現金をプレゼントすることが、より好まれることを知りながらも、いったい幾らなら母が喜ぶかよく分からなかったから、化粧品にしたと言ったほうがいいのかも知れない。いや、日本に慣れたとはいえ、本音を言ってしまう韓国人の一人として私は、私の親が満足してくれるだろうと確信している金額が、私には負担が大きかったことを告白する。

人の母であり、人の子でもある私。私は、親の日のプレゼント代を節約してしまう娘であるが、子供の日には財布の紐が緩くなる母でもある。私が息子を思うように、母も私のことを思うのだろうなと分かりながらも、なかなか親孝行が難しいなと感じる。親子関係は、「ネリサラン」だからと言いつてしてみる。

(ネリサラン：韓国のことわざ。「下り流れる愛」という意味。親子の愛は、川のように親(上流)から子(下流)に流れるもの)

## 筆者紹介

朴沼泳 (ばく・そよん)

2001年38回韓国弁理士試験合格、2013年日本弁理士試験合格。現在は新樹グローバル・アイピー特許業務法人の顧問を務める。ソウル生まれ、2003年から現在まで日本在住。

韓国の中央大学の政治外交学科および大阪工業大学の電子情報通信学科を卒業。趣味はダンス、好きな食べ物はチラシ寿司、キムチチゲ。好きな言葉は「修身齊家治國平天下」。